

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	鹿児島県指定 第4670105065号
法人名	医療法人 明輝会
事業所名	グループホーム ひばり
訪問調査日	平成 22 年 1 月 26 日
評価確定日	平成 22 年 2 月 20 日
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構



○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 1月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670105065号		
法人名	医療法人 明輝会		
事業所名	グループホーム ひばり		
所在地	鹿児島県 鹿児島市 吉野町 2042番地 (電話) 099-295-7033		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市 星ヶ峯四丁目 2番6号		
訪問調査日	平成22年1月26日	評価確定日	平成22年2月20日

【情報提供票より】 (平成22年1月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤15人	非常勤4人 常勤換算18人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	140 円	昼食	280 円
	夕食	280 円	おやつ	円
	または1日当たり			700 円

(4) 利用者の概要 (1月10日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	4名	要介護2	4名		
要介護3	8名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.2歳	最低	76歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内村川上内科	大田歯科
---------	--------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

吉野地域の古くからの住宅と新興住宅街の入り混じった地域に位置している。中庭をはさんで二つのユニットと小規模多機能ホームがあり、高齢者専用賃貸住宅も同じ敷地内にある。管理者や職員は、理念を基に利用者の思いや希望を大切にしながら、日々のケアに取り組んでいる。運営母体が医療法人であり、緊急時の医療連携体制も取れていて、利用者・家族にとって安心のホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4) 職員を育てる取り組みについて、研修の充実、同業者との職員の交流など、改善している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を全職員で行ない、ユニットでまとめて話し合いを行なった。職員は評価の意義を理解していて、日々のケアを振り返り、見直す機会となり、具体的な改善への取り組みがなされている。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 家族や民生委員、地域包括支援センターの職員に参加してもらって推進会議を行っている。ホームの状況報告や意見交換を行い話し合いを行っている。認知症サポーター養成講座の開設や地域とのかかわりなど、そこでの意見をサービスの向上に活かすように取り組んでいる。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 管理者・職員は、家族会・運営推進会議の参加時や面会時には、声かけを行い家族と何でも話せる関係を作っている。家族から意見・要望があった場合は、全職員で話し合いを行い運営に反映できるように努めている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の住民がホームの行事や地域交流会に参加している。近所の子供達が尋ねて来たり、散歩時に挨拶を交わしたりしている。認知症サポーターの養成を行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員と話し合いを行ない、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、申し送り時に唱和し確認しており、スタッフ全員で理念を共有している。職員手書きの理念を玄関に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の住民がホームの行事や地域交流会に参加している。近所の子供達が尋ねて来たり、散歩時に挨拶を交わしたりしている。認知症サポーターの養成を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行ない、ユニット毎にまとめて話し合いを行なった。職員は評価の意義を理解していて、日々のケアを振り返り見直す機会となり、具体的な改善への取り組みがなされた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や民生委員・地域包括支援センターの職員が参加して推進会議を行っている。ホームの状況報告や意見交換を行い、話し合いをしている。また、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの職員との協力体制や介護相談員の受け入れは行っている。市の担当職員との日常的な連携は少ない。	○	市の担当者へ、ホーム便りを届けるなどして連携を深め、市と一緒にサービスの質の向上に取り組んでいられることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ホーム便りを発行し、近況報告も行っている。面会時には、健康状態や金銭管理の報告も行いサインをもらっている。利用者に変化があった場合は、電話で報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に管理者や職員は声かけを行っており、家族と何でも話せる関係を作っている。家族から意見や要望があると全職員で話し合いを行い、運営に反映できるように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に行っている。異動や離職がある場合は、引継ぎ期間を設け、利用者のダメージがないように配慮するための体制を作っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加しており、職員会議で研修報告を行っている。法人内での勉強会やグループホームの勉強会を行っている。資格取得希望者への配慮や個人のレベルアップについての協力体制もできている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吉野地区グループホーム連絡会に参加していてネットワーク作りや勉強会や親睦会に管理者・職員は参加していて交流を図り、サービスの向上に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族に見学に来てもらい、場の雰囲気に馴染んでもらってから、サービスを開始している。職員は家族と相談しながら、他の利用者との馴染みの関係も築けるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	行事食や郷土料理の作り方・家庭菜園の仕方等、利用者から教わったり、利用者と職員と一緒に過ごす中で、学んだり・支え合う関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動を見ながら、思いや意向の把握に努めている。また、ケア会議等で話し合い意見を出しあっている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族・職員、担当医・看護師等の関係者と話し合いを行いながら、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に評価を行い、期間に応じて見直しをしている。また、状態変化に応じて話し合いを行い、現状に即した計画作成の見直しをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、買い物・病院受診・美容室・墓参り等、臨機応変に柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。定期的に必要時に医療が受けられるようにかかりつけ医との連携も取れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として重度化・終末期のあり方についての方針ができており、職員も共有している。本人・家族・かかりつけ医との話し合いも行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室に入る時や排泄時・入浴時・食事の食べこぼし等、声かけや対応に気をつけている。記録等の個人情報の取り扱いへの配慮も行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食時間や入浴等、利用者ひとり一人のペースを大切にしながら、ゆっくりと過ごせるように希望に添った支援を心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好きなものや食べたいものを聞いてメニューに取り入れている。下ごしらえや調理・配膳・下膳を職員は利用者と一緒にしながら、食事が楽しみになるように支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間は決めているが、利用者の希望やタイミングに合わせて対応している。一番風呂の希望者には交代で希望に添えるようにする等、入浴が楽しみになるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や力を活かし、庭の掃除や洗濯干し・買い物・畑の管理・戸締り等、役割や楽しみごとや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩・外食・映画等に出かけている。週1回は、外出日を設けていて、ドライブや散歩にも出かけている。時にはおにぎりを持って出かけることもあり、日常的に戸外に出かけるように支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。中庭に出たり、自由に出入りができるようにしている。外出する利用者には職員と一緒に行動するように心がけ支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導訓練のほか、毎月避難訓練を行っている。具体的に災害を想定した訓練を行っている。地域の方々には声かけを行っている。備蓄は準備されており、防災の日みんなで食べて確認している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を確認している。体調や状態に合わせた食事形態にしたり、一人ひとりに合わせた支援を行っている。献立は定期的に法人内の栄養士にチェックしてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花鉢が飾っており、リビングから中庭が見える。利用者の作品が飾られテーブルが置かれている。畳コーナーも用意されている。流し台は車椅子で対応できるよう工夫されている。小規模多機能ホームと廊下を自由に行き来でき、快適な共用空間づくりとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳部屋で使い慣れた箆笥や家具・テレビ・仏壇・椅子・花・写真・布団・ベッド等が持ち込まれ、個性的で居心地よく過ごせるような工夫がされている。		

※  は、重点項目。